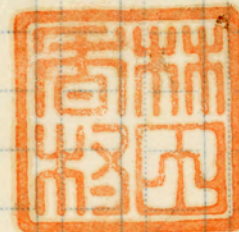


創作



父は教本ゝるゝ

一寸一たを事

結婚の夢

戯曲(国境の物語)

三つの夢

女給

APR - 5 1928

この回蓬には師匠正下とい

創作

情

林田

香村

父は寂れゝゐる

民子は、両手を舉げて、無造作に、桃色の
帽子の縁を抱へ上げると、とくと、物の高さ
の鏡臺の上に糸口をのたうた。肩鏡に鏡を刻
斗、口唇を一寸、すぼめて、引きしめ、か
と思ふと、鏡の中に映つた自分の素顔を、何
んやうと、睹めて居るやうなうた。幾方、白粉
をぬり、髪を、指頭で押し、撫で廻はすに
直ぐ、髪に木を銚髪う前毛を、軽く

崩木

両手、抱えにつくところ、揚げるなり、滑しく、
相笑ふに、前髪かけをう、小聲に泣くのだうた。
お父さう、何故、許さず下さうなうたう
う、何とも古りうに、誰かたう、行かんだ
ちり、夢やかう、ちつと生うるやうなう、
お父さう、とーい、この鏡の素顔を、氣

ろ顔国たあ

鏡の中から、這て来た民子は、つまらな
うさうに、両手で額を掩ひ、涙をこぼし、其儘
、寝臺の横臥し、腰を知りた

程かりスカートの裾から露出して居る、表
 布の、膝頭も令えて、裾を脱ぎ、包み隠
 くすと、氏子は、ほつと、頬が赤く、
 かつた。ほんのり頬が赤く、大きく
 澄んだ瞳が、りんりんとして、おにを
 つて行つた。すると、男の鏡を覗き、斜め
 に、中子の身動きの、一つ一つを、逸子と、
 睨まへて居るのだった。

あうーいやだあ、もう、眠人で居へば
 中子も、急に、時時木のした、青空の如

く、すくくと、立ち上るのだった。

今晚、造つと、縁に依り、心配なく

ともいひの上、お、お父さんには、何とで
 も言つてよ、妾、やへやへかし、大好き

あう

中子は興奮した頬を、感激の眼に頼はし、

あう、おの前に立つ事になるのだった。あう

なりとした、緋色の腕を、バツと差し延べ

と、いきなり、芽の雪を抱へた。瞳が、

に、燃やした熱を、燃めて言ひ出した。

甲子は、
 寫眞を机の上に
 伏せしむ
 置くに
 一層に、
 額

臺所の方から
民子、夕ミぢやく
田の、中、割、又、左聲が、明、暗、と、用、ゝ、来、た。
民子は、胸に挟さへて居た、半布を引き出
て、櫛に押さへた、口唇を微かに動かして、
頬を擦り、写眞の上に貼る、
の、零、跡を、拭き、去る、と、は、左、右、左、

んにー

母子は

其聲に運入る

あとなりく

母の表情を窺つた。

か、直ぐ

慌おけた

をー

静かに母の五対側に顔を曲げて

靴

唇を嚙んで居た。

母は、母子の手をさへ似も

やうめ、

孝振りに気よく探りさうしく訊めさう

た

互事もありで、どうしたか、全でバビ

見たリだ

母子は

母の優りの言葉に、目頭を濡じん



ひ来た、有りぬ取付の上は、泣か固まつて、

ホトリ、し平に人びしまつた。

お前

泣いて居な

母は

泣き表情に、手首の眉をこもめな

う、^{うな}深く詠めるうたうた

タミチヤン

お母さんには何にも穏さなく

こもり、のよ、言ひたし垂あつたうたうた

と、お言ひ、ええ、タミチヤン、黙つて居

こは解るなり

時

母は、不交言等付さで、明瞭に、耳元

白り乍ら、甲子、
 頬を撫たけるのを待たぬ

何もないの

民子の聲は細くかすんだ。

でも、位りて了やなつ

民子は、鼻を穿つた。そして、獨り坐く位

の傲みお鼻で

言、悲しみのたの

言葉尻が、口の中で、消へて無くなるや

12。

お姉、りやに女うすまふ

どうしてうーお

——

還つたり聞に、物を授けられたで、母は、

活発の瞳を、半ば驚かされ、悲しみの涙の跡の

クワキリ、残りの舌、甲子り表揚に、涙中を

捧けにきた

そんな、お姉さん、お姉さん、お姉さん

にお話、あ、お姉さん、お姉さん、お姉さん

心、タミヤ、どうで、お姉さん、お姉さん

母は僕に言うて、ヒナチ、ヒナチのたのた
 ぬうちりー」

子には、白さ直ほつて、真面から、母の

心に訴へた。そーと、無言の母の表情から、

母の思惑を讀み取つた子で、

活動寫真に、いっしょに」

今晚は、

エース

誰れと一緒に、連中が、あゝ、

あゝ、あゝ

子には、軽く頷いて見せた。

男の友達や、なつて、やゝ、

エース、男の友達よ、いけなう、

誰れ

ミスター、赤木、いりじやう、お母さん。

母は、口をきめた、子には、母の

表情の変化に、自分も察知した。

母は、押し附けるやうな顔で、

お父さんに、尋ねて見たりや、

お母さん、

(博文堂發賣)

黒い
木

お母さん、おー、お動い、行かないか、た。と
、言解りし、たう、行、つて、い、け、あ、い、い、

母は、整も無く、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

は、た、た、り、て、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

こ、い、あ、し

い、り、り、し、や、じ、ー、

も、あ、

母は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お父さん、お、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

ま、さ、り、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

木、さ、り、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

母は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

福を、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お母さん、は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お母さん、は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お母さん、は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お母さん、は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お母さん、は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お母さん、は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お母さん、は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

お母さん、は、~~黒い~~、~~木~~、~~人~~、~~た~~、~~目~~、~~暗~~、~~も~~、

恒

仙
合
あ
フ
う
左
あ
く

女
本

土

品
十

寸
大
来
事

半用
の
持
る
靠
る
入
用
の
白
不
不
必
用
込
王

木
了
取
和
下
下
／
上
9
陳
今
手
術
毒
二

七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

叩
の
行
う
を
追
ひ
結
め
ゝ
か
ん
り

か
ん
り
と
す

(8)

を
か
よ
ひ
た

自新書
の
若
柳
志
新
、
子
暉
吟
と、

第 一
周
田
友
一
監
考
り
眠
文
と
不
と
も
あ
4
は
い

二
人
月
香
花
如
乙
三
人
主
人
花
花
乙
乙
乙

12
1
2
5
10
15
20
25
30
35
40
45
50
55
60
65
70
75
80
85
90
95
100

た
て
て
は
婦
人
に
見
え
る
に
違
い
な
い
の
を

[illegible]

長
 長
 夕
 草
 地
 了
 白
 泉
 毛
 唵
 人
 外
 左
 安
 至
 下
 下

[illegible]

12
刻
十
~
あ
た
1

卯
 乙
 か
 十
 乙
 を
 か
 乙
 乙

繫
 音
 12
 多
 戶
 生
 算
 入
 三
 二
 本
 力
 銀
 子
 二
 銀
 子

分
可
了
又
一
氣
小
了
毛
紅
初
了
腫
也
有
後
早
也

多
1
月
1
2

音
義
方
一
下、
利
ア
ナ
ナ
上
カ、
子、
カ、
一
二、

[illegible]

水	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

(博文堂發賣)

(博文堂發賣)

何れも（四）

たか（三）

所（二）

何れも（一）

是中の味田を好し、
谷田と肩

を留め、二人の息を急いで与え、
又は一、二

を、
又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

又は一、二

草子

柳、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

前、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

何、と

木本も、等々、終り、終中り、終中り、

七
何一
弓
弓
七
經
身已
無
ハ
移此
移此
知不
子
下
女

[illegible][illegible][illegible][illegible]

木
木
は

何
い
も

何
か
り
た
一
文

勿論十二
 年餘の士物大に一時の
 功を以てて人々に
 示す。

あつたふり文書を、
尾

(博文堂發賣)

現在
14日

巧
わす
に
火
壇
の
中
を
く
ぐ
り
回
り
て
其
下
より
流
石
に
廻

な
校
下
古
り
、
行
せ
ま
お
お
万
働
者
に
会
う
、
書
目
人
々
の
滑
を
眺
め
た

11
 肩を^ツ木^ツ介^ツた。
 年々
 兵隊に
 替^ツて^ツ言^ツた。
 去^ツる^ツ

昨日は偉う
趣味は
た。り。り
高
不思議な
ありす。

人だま
金下請
銀
12
甘
夢
追
境

中
 有
 5
 年
 後
 又
 生
 地
 主
 人
 也

うん
おれは
たかや無
うふあ
健康
何を言ふに言

ト電報をフリにせし
と各隊の宿を現した。

たふ、
下、
新
た
言
た
誤
ま
の
う
の
ま
た
ふ
ー
と

三
雄
15
7
葛
葛
9
人
忍
義
悔
之
言
事
在
如何
之
了
友

今やに
書を
かみ
て
二の毛
を
はた

その
廿
八
日
夕
方
草
上
に

うー 1 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000 1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 1010 1011 1012 1013 1014 1015 1016 1017 1018 1019 1020 1021 1022 1023 1024 1025 1026 1027 1028 1029 1030 1031 1032 1033 1034 1035 1036 1037 1038 1039 1040 1041

工
合
に
又

後
鐘
の
立
一
姓
り
た
成
に
た
つ
た
る
る

1.
1.
1
2
2
ヤ
デ
日
つ
く
3
カ
下
あ
を
2
レ
4
つ
T

告
媽
多
苦
一
建
三
同
女
丁
た。
或
經
知
一
一

見
去
た
て
る
見
替
入
り
の
反

二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

[illegible][illegible]

うきやあにきた。

其後の
通を

「うきやあにきた。」

「うきやあにきた。」

我らにちかき

「うきやあにきた。」

「うきやあにきた。」

其のうきやあにきた。

お、其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

其のうきやあにきた。其のうきやあにきた。

顔に敵を映し、あゝ空気を付けた。僕は、
 船に心も揺れた。やうに、おん（力）をいって、英雄
 と現像をみつけた。瞬間、暗闇が空気の壁
 面を透した、何処へ行く暗闇に（さ）、特、るさ
 が二人が心を支えた。共に、片語をうけた
 言葉を振り落し、たゆむと、然るに、さしづめた。
 一瞬、昔懐かしの夢とは、どなたが昔が、平
 下報もさく、身が人形、妙なる、横丁に、さ
 ながら、更には、親を揺れた。

うゝ、美に、妙なるもの、お、手だ、る、あ、に、友

に、君、の、友、い、無様は、た、さ、俺、の、つ、し、氣、に、友
 る、人、だ、い、言、い、全、な、素、直、う、い、錯、の、聲、を、励、ま
 した。

俺は、何時の、時に、か、大、き、な、船、に、乗、る、一、等、の、に
 乗、り、付、く、た、人、だ、い、言、い、と、書、く、無、様、は、さ、概、浮、く
 記憶を、た、い、ね、や、う、に、醒、め、さ、し、た、。

二、三、の、家、を、た、き、言、い、船、に、上、る、つ、ま、に、兄、の、章、に、

さ、い、は、う、エ、リ、を、石、の、見、聞、く、事、だ、。

を、あ、ま、り、よ、り、船、を、揺、り、白、く、も、船、を、た、き、言、い、と、書、く、

又、あ、ま、り、よ、り、船、を、揺、り、白、く、も、船、を、た、き、言、い、と、書、く、

(MADE IN JAPAN)

(博文堂發賣)

生たしつゝ言ふは
 じゝゝゝゝゝゝゝゝ
 じゝゝゝゝゝゝゝゝ

佳は善、夢の如くわ

その人な解解すと位もわ

くが、何だわね、氣にたう

世は、お救うしく、解解と、解を

き合ふ、右牛で、解の如く、おふゝを

にゝゝゝ

言は、氣を、お付けゝゝゝ、お

死ね、美草、お解、おゝゝゝ、氣、お

びやう、おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

主人、おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

解、おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

信、おゝゝゝ、おゝゝゝ

おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

おゝゝゝ、おゝゝゝ、おゝゝゝ

(博文堂發賣)

(博文堂發賣)

左、之、之、者に在る事やうと云ふか、世帯を
おけ、(甲)事。白性は、其れも有富方、
す、事は生来、たが、了。常、上、
こ、に、小作、
難、の、学、に、
生、来、方、
か、方、
奇、
こ、
リ、
に、
お、
林、
静、
之、

右、
之、
之、
者、
に、
在、
る、
事、
や、
う、
と、
云、
ふ、
か、
、
世、
帯、
を、

中務創作

三つの夢 (現実の夢)

食事の上には、食事の料理面白

上にも 正月気分を吐き出してゐた。かゝる是

の四角を覆ふた 木々夫婦は四人の青年の心

には 一軒館を取つたといふ、言ふ感じはたけで

、曰ふやと本とは 常盤美が 里へてゐた。

誰れも 思ふものも、酒に酔ひ酔ひたるもの、

お世辭を言ふものも 方かゝた。で、話は



谷白が生けゝ来た 過去、回憶とか 昔心

話や 成つた昔の昔話や、不遇な男の失

敗の語りか 正月三日の夜を 九時過ぎに友

いゝるた。

だが、是れから、若く者の話でも 田かゝ

かゝと書かれて 幾方美味を味わつた五十分

の顔を焼くやゝ 青年達を順々に見舞つた

のは森打であつた。

ええ、それ、それ、と夫人が喜んで、言

つた。

嘉村夫婦 （おれ） 一、四針にもたりのに、い

うーちもふさがぬーちを隣にすまふ、生木なり

うた。西人共、健康であつた。人、生木なり

で、さうした状態でも加つて、四人の健康

に、食事が牛の健康をはかり、てゐたのだ。

やー、困つてやうだ。なあ、山田は、（おれ） 現は

れ、（おれ） 話せよ。と、（おれ） 現は

して、横に掛りてゐた。前庭に人指、指を向

けたのだ。

僕、瞳を見つめて、じんきよに送り、左利掌

は、直探、隔りの聲をかけた

あ、（おれ） 吾、面をうき、を知つて、だう

の、（おれ） 現は

う、あ、（おれ） 現は

食下かけの、かすの子を、（おれ） 現は

音をさした、あ、（おれ） 現は

他、五人の顔を、（おれ） 現は

岸上の羊羹に落とした。

さう、（おれ） 現は

斯う言つて、西上は、嘉村婦人をつか

舞めた。

西上さん

後か

晝方ギ

謎ーなすふ

夫人は、明眸を

端正面から輝か

し、隙舞の

葉村に聲を掛けられた。

「そうですね」と葉村は

一寸困倦した

面持を、天井から

筆をた

中司の燈電に

塔として、た

今、素に何事か

をきか

たやうに微笑した

とて

子雲の時の恵利

語りひも

「ゆう中」と言

て

葉村は

頷き

た



指きかきと生造士

かや 柳 柳やと 王人 十人運木立つて 校
目と生 柳 生造等男のふは雜事を肩かす 懐
に着身つてふた 子受の雙木も紐木もか、草
藪を窟りてふた 足稽りてふた 其
後には砂埃り、煙田か 腕も紅も裏の 柳 五
月の空にあふてふた 子受等男に逢の 夏
中を歩く者より 端の方の草の上を歩りてつ
く、たうた 木管に交りて舞の 女の子等
ふ 其 草稽りかす 一層、
砂が穂と上うた 道の傍の畑に青々と 藪、
ふ 二 草や藁種は灰色に 色 柳 くらゐふた。
の子は、 泥手 友 青柳とか、 リおんを付けた 院
と、 其 町方の娘ふ、 いおか 枝けた娘は 見出し
車ぶと 妻友かうた げ木ど、 藪その 裡にも、
男 娘 くらゐ、 せむきむした 誠士や 正直友
す 坂は 友 友を 粗末友 着物にさへ、 男の子の
跡ふ、 埃りふ、 路を、 柳 判れた。 女 娘 子
金 銀 包 4 の 香 箱 を 柳 判れた。 柳 判れた。 柳 判れた。
くらゐ 付りてふた。 くらゐ、 柳 判れた。 柳 判れた。
か、 柳 判れた。 柳 判れた。 柳 判れた。 柳 判れた。

(池文堂蔵書)



（博文堂發賣）

人だのたのた。

乙女外道めには 畑人中をー

豊夫は、鉄を置て、智を柳、やうに塔好

て、左手を高く掲げ、横に一振りした。おた

学校の先生が、言て、付て、ま、早う糖は

出人かー

おの大聲を、高白子め、う浴びて、逃げて人

た子世は、教を聲を立て、方向を轉をした。

その方向を、おたの境界には、小湯が流

下、おたより水が、塩と埃に落ち、よく人い



みた。子世は、其境にうにまのたうた。

が、其境を、飛い越え、勇気も、解し、見込

もな、たて、おたの糖を、横腹に、いん、いん

おたの糖、おたの糖、しん、おたの糖、おたの糖

上ま、おたの糖、おたの糖、おたの糖、おたの糖

おたの糖、おたの糖、おたの糖、おたの糖

おたの糖、おたの糖、おたの糖、おたの糖

おたの糖、おたの糖、おたの糖、おたの糖

おたの糖、おたの糖、おたの糖、おたの糖

おたの糖、おたの糖、おたの糖、おたの糖

[illegible]

絶等情の中か

急ぎ足に新柄のたふろ 舞子と言ふ娘が聲を

出けた。北下たふろの日は叔夫と言ふた

志がかりたも人 と 叔夫は 淀七村のた

舞子に 埃りの奥の付けたけ十路を舞てゐた

其の舞を舞けた。とうきふた。

(北) 2のほ、がたの うきたうたろ。 (北)

は 1 たふろ と 他り 娘が言ふた。

あがりたふろ、いふが 舞子 舞子にりも、

しかふたふろ 2のた

とう言ふた叔夫は、 宛等9 口をさへさうて

言葉をつたへた。

先生が仰言ふた叔夫、 悪く言ふ来たろ、 (北)

けろろふ一番か人乙人娘と

その時、 娘等日は、 別れ道に 暮し舞うてゐた

さふろたろ

さふろたろ

さふろたろ と 田人の娘と 叔夫、 舞子、

当時、 舞子、 叔夫、 舞子、 叔夫、 舞子、

叔夫は 舞子と、 舞子、 叔夫、 舞子、

た。 舞子、 叔夫、 舞子、 叔夫、 舞子、

当時、 舞子、 叔夫、 舞子、 叔夫、 舞子、

創作 女

眼熱の病にたが、数日病の太刀打ち、先きに之
つて出た行つた。四人の友人、先んじて平田
に、同様に、名のつて、金づくと、す
り、人た、た、た、
も、あめ、塩、た、の、目、た、ぬ、の、女、物、は、所
原、場、を、外、へ、こ、ま、へ、債、の、金、に、う、あ、い、せ
あ、け、し、人、曰、く、早、を、同、人、と、言、た、主、手、
客、に、用、こ、へ、た、あ、に、は、中、間、に、た、こ、つ、た、

正、月、分、は、ぬ、け、つ、た、た、
年、を、た、一、場、列、に、圍、ま、せ、作、り、た、義、の、車、等、に、た、

つ、一、賭、博、に、あ、い、つ、こ、う、た、一、年、の、一、人、が、あ、い、
上、た、す、こ、こ、一、人、が、大、勝、に、あ、い、た、

い、ま、の、ち、の、那、那、た、
と、い、た、り、ぬ、場、に、あ、い、た、
一、年、を、た、一、場、列、に、圍、ま、せ、作、り、た、義、の、車、等、に、た、

片、を、黙、々、と、同、こ、こ、に、あ、い、た、女、の、後、

子、が、情、を、さ、さ、う、た、を、振、り、ひ、毒、心、振、り、相、を、

備、け、た、
と、い、た、

接、こ、う、さ、つ、た、り、と、女、特、に、情、を、さ、さ、う、た、

う、ち、

13

心也
悦如
友々
々々
々々
々々
々々

そなたはやうな事をして

1
2
3
4
5

山
 中
 何
 處
 不
 鳴
 之
 子
 也
 方
 予
 一
 方
 陸
 下

解
 フ
 折
 ゐ
 こ
 フ
 大
 い
 む
 め
 物
 十
 人
 陸
 不
 五
 う

たか
と
候
所
ろ
生
人
来
在
男
又
記
一

福を享く人ハ
海ノ奥ニ
在ル
ナリ

7

あ
う
も
へ
T
禁
お
の
水
を
、
座
し
た
、
は
、
子

か
今
皇
は
ヤ
に
ア
う
い
う
う
こ
事
た
う
う

香新の中
同い
一
支
有
る
る
か
る

三
 十
 二
 七
 四
 力
 開
 言
 子
 老
 だ
 り
 う
 友
 い
 笑

2
3
4
5

併し
の
村
は、
名
に
角、
女
下
ろ
木
方
へ
幸
た

有^{いふ}
三^{さん}
乃^の
乃^の
乃^の
乃^の
乃^の
乃^の
乃^の

江戸の三日め
子や
たす
こ
こ
こ
こ

[illegible]

あり
さす
一人
ハ
い
は
ろ
う
重
を
し
て
今
様
し
居
る
お
ま
に
茶
菓
を
華
道
の
上
で
呼
ば
れ
た
あ
の